

先生各位

## 検査内容変更のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、このたび下記項目の検査内容を変更させていただきますので、ご案内申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

敬白

記

《変更日》 平成 15 年 3 月 31 日(月) 受付分より

《変更内容》

2002 年 検査案内	検査 コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P. 28	2374	黄体形成ホルモン (LH)	検査方法	ECLIA 法	RIA 固相法 (IRMA)
			基準値	別紙参照	
			報告範囲	0.1 以下、0.2 ~	0.5 以下、0.6 ~
	2376	卵胞刺激ホルモン (FSH)	検査方法	ECLIA 法	RIA 固相法 (IRMA)
			基準値	別紙参照	
	2379	プロラクチン * (PRL)	検査方法	ECLIA 法	RIA 固相法 (IRMA)
基準値			別紙参照		
報告範囲			0.5 以下、0.6 ~	0.3 以下、0.4 ~	
P. 34	2571 2574	E <sub>2</sub> (エストラジオール) 血清 * 妊婦・非妊婦	検査方法	ECLIA 法	RIA 固相法
			基準値	別紙参照	
			報告範囲	5 以下、6 ~	10 以下、11 ~
	2592	プロゲステロン	検査方法	ECLIA 法	RIA 固相法
			基準値	別紙参照	

その他の検査要項に変更はございません。

- \* なお、プロラクチン (ECLIA 法) は WHO 標準 (第三世代) に基づいて測定値を設定しており、E<sub>2</sub> (ECLIA 法) はヨーロッパの標準法である GC-MS 法に基づいて測定値を設定しております。従いまして標準物質の違いから、従来の RIA 固相法との間に測定値の差が認められます。

【変更理由】 検査方法の見直し

《基準値》

2002年 検査案内	検査項目名称		新基準値	現行基準値	単位
P. 28 左下別表	黄体形成ホルモン (LH)	男性	1.7 ~ 8.6	1.8 ~ 5.2	mIU/ml
		女性			
		卵胞期	2.4 ~ 12.6	1.8 ~ 7.6	
		排卵期	14.0 ~ 95.6	5.6 ~ 34.9	
		黄体期	1.0 ~ 11.4	1.0 ~ 7.8	
		閉経期	7.7 ~ 58.5	8.7 ~ 38.0	
P. 28 右下別表	卵胞刺激ホルモン (FSH)	男性	1.5 ~ 12.4	2.9 ~ 8.2	mIU/ml
		女性			
		卵胞期	3.5 ~ 12.5	5.2 ~ 14.4	
		排卵期	4.7 ~ 21.5	5.6 ~ 14.8	
		黄体期	1.7 ~ 7.7	2.0 ~ 8.4	
		閉経期	25.8 ~ 134.8	26.2 ~ 113.3	
P. 28	プロラクチン	男性	4.1 ~ 18.4	1.5 ~ 9.7	ng/ml
		女性	3.4 ~ 24.1	1.4 ~ 14.6	
P. 36 左第3段 別表	E <sub>2</sub> (エストラジオール) 血清	男性	14 ~ 60	20 ~ 60	pg/ml
		女性			
		卵胞期	25 ~ 195	25 ~ 100	
		排卵期	66 ~ 411	150 ~ 450	
		黄体期	40 ~ 261	70 ~ 220	
		閉経期	10 ~ 40	35以下	
		妊娠			
		前期	786 ~ 4584	120 ~ 5200	
		後期	1810 ~ 13890	6100 ~ 52200	
P. 36 右最上段 別表	プロゲステロン	男性	0.2 ~ 1.4	0.1 ~ 0.6	ng/ml
		女性			
		卵胞期	0.2 ~ 1.5	0.1 ~ 1.2	
		排卵期	0.8 ~ 3.0	-	
		黄体期	1.7 ~ 27.0	2.5 ~ 29.0	
		閉経期	0.1 ~ 0.8	-	
		妊娠			
		~ 16週	-	10.0 ~ 40.0	
		17 ~ 28週	-	20.0 ~ 150.0	
		29 ~ 40週	-	80.0 ~ 300.0	

《現行法 ( RIA 法 ) と ECLIA 法の相関》

